

ハート・オブ・ゴールド



2006年12月25日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市西幸川872-2
T&F 086-284-9700
メール:hoginfo@hofg.org
※メールアドレスが変更になっています。

URL: <http://www.hofg.org/>



友人ソカーとの1年ぶりの再会
DTS講座「スポーツを通じた開発」(東京)



花嫁誕生!
HG飯田クラブのみなさまと



アンコールワット国際ハーフマラソン2006

11回目を迎えてますます盛大に

2006年12月17日(日) アンコールワット遺跡周回特設コース(AIMS公認)にて開催
＜主催＞カンボジア陸上連盟・カンボジアオリンピック委員会
＜特別協賛＞第一三共株式会社
＜協賛＞株式会社アス・ワン、小学館、Vitamilk、CAMBREW LTD.

過去最高の36カ国2153人(マラソン1948人、ウォーキング205人)が参加して盛大に開催されました。

インターネットでのオンラインエントリーや、ハーフマラソンへのチャンピオンチップ導入(計測用の電子チップ)など、国際レースとしてグレードアップすることもできました。受賞者の中には昨年度参加者の顔が幾人も見られ、アンコールワット国際ハーフマラソンが定着していることが感じられました。そして、去年の優勝者で、かすみがうらマラソンに招待されたヘム・ブンティーンさんが再び1位を獲得!カンボジアのランナーの将来が期待されます。またCHEMS(カンボジア・ヘルス・エデュケーション・メディア・サービス)の協力によるHIV/AIDS予防キャンペーンブースにもたくさんのランナーや応援者の方々が集まりました。

＜プレイベント＞2006年12月16日(土)

☆アンコールウォーキング

カンボジアの子ども達(チェイ日本語教室、るしなチャイルド・ケア・センター、雀の学校)、日本からのツアー参加者、アンコール小児病院からのボランティア医療スタッフが参加しました。日本語教室で学ぶスライミーさんが流暢な日本語で挨拶をしたり、桜組(年長クラス)の生徒がすすんで通訳を引き受けてくれたり、日本人学生ボランティアが企画したレクリエーションで汗をかいいたり、クメール語、日本語、ボディーランゲージで楽しく交流しました。5Km地点での別れ際には涙ぐむ場面もありました。

☆バイク(自転車)レース

米国NGOであるVFI(ビレッジ・フォーカス)が運営するバイクレース(参加75名)も開催され、大会前日から大いに盛り上がりました。

☆前夜祭

16日夜には、300人近いランナーやツアー参加者が集い、前夜祭が盛大に催されました。高橋文明在カンボジア日本国大使からクメール語、日本語を交えてのスピーチをいただいたり、翌17日に誕生日を迎える有森代表へのサプライズ!カンボジアでの最初の友人ソカーさんから花束が贈られる一幕もありました。

←今年のAIHM2006スタディツアーでは、カンボジア地雷行動センター(CMAC)と日立建機株式会社のご協力を得て、地雷処理活動の見学(模擬地雷原)を行いました。

※スタディツアーのCD写真集を販売しています。ご注文はHG事務局まで。

HGJYA(ハート・オブ・ゴールド日本青少年大使)募集中! 詳しくは <http://www.hofg.org/new/>

カンボジア障害者陸上連盟 (CDAF) 事務所改修工事 完了

保健省敷地内の倉庫の使用が許可され、事務所として改修工事をはじめ、今年3月に第2期の工事が完了した。

岡山せとうちライオンズクラブ認証20周年記念事業として3月20日(月)に有森代表が本事業支援の目録ならびに2006年度ハートペアレント支援の目録をいただきました。

10月15日(日)には岡山プラザホテルにてライオンズクラブ認証20周年記念式典パーティーが盛大に行われ、本部事務局より田代事務局長と井上が出席し、改修工事の報告とCDAFメンバーからの感謝のメッセージをお伝えすることができました。



また、これまでにHG理事の神津カナ氏、HG飯田クラブよりCDAF運営資金(6ヶ月:12万円)の支援をいただいております。(担当:井上恭子)

チームアギータ(東ティモール) スポーツ奨学基金のご報告

アジア地域事務所長 山口が郵貯ボランティア配分金の活動の為、東ティモール入りました。

アギータさんの住まいは空港に近く、危険地域ではありますが、チームの子どもたちも今では100名ほどに増え、スポーツを通して子どもたちが健全に成長して行けるように日々、彼らと共に奮闘しています。

皆様よりお預かりしたスポーツ奨学基金をアギータさんの要望により、「チーム・アギータ」のロゴが入ったTシャツへと替えさせていただきました。アギータさんも子どもたちも、とても喜んでおられます。暗いニュースが続くなか、皆さまの想いが彼らに伝わり、このTシャツにより改めてスポーツを愛する子どもたちがチーム一丸となり日々のトレーニングにも精をだしているようです。

今後とも、「チーム・アギータ」を温かく見守ってやっていただけるよう、どうぞよろしくお願いいたします。また、彼らの情報が入り次第、ご連絡させていただきます。(年間1人1万2千円の支援)



チャイルドケアセンターから初めての花嫁が誕生しました

シエムリアップのチャイルドケアセンターのチュップ・リエップさん(20歳)がセンターで初めて花嫁となりました。リエップさんは14歳のころからセンターで暮らし始め、女子寮の最年長者として他の子どもたちの良き姉とし、みんなの悩み相談や、小さい子どもたちのお世話などをしてきました。とても優しく、がんばり屋の素敵な女の子です。高校に通いながら、職業訓練として同センター長の経営するカフェにてアルバイトをしておりました。そこでオウン・リタ氏(21歳)と知り合い、8月28日に結納を終え、11月6日にセンター関係者、オウン氏のご家族に祝福され、結婚いたしました。カンボジアの結婚式はとても盛大に行われます。この日ばかりは綺麗なドレスを着て、たくさんのご馳走を前に3日間宴会が行われます。

今後同カフェにて仕事を続け、センターの子どもたちとも兄妹として連絡を取り合い、オウン氏とともにふたりで力を合わせて歩いていくことでしょう。

これまで温かく見守り、ご支援いただいたハート・ペアレントの皆さまと共に祝福したいと思います。おめでとうございます。(担当:妹尾祐美子)

岡山県から訪カン盛んです!

岡山県では、8月13日から8日間、国際化推進のため、石井知事を団長にベトナム、タイ、カンボジアの3カ国を訪問しました。カンボジアでは、岡山発の国際貢献活動の推進に当たり、県内に活動拠点を持つNGOの活動現場の視察において、HGアジア

NCCCプロジェクト (New Child Care Center Project) ご案内

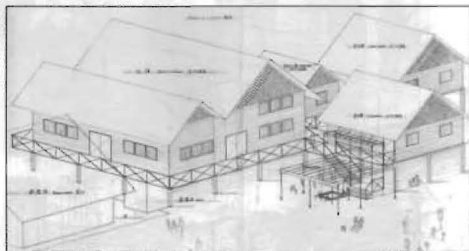
当プロジェクトの目的は、新チャイルド・ケア・センターをカンボジア北部ポーク地区チェイ村に建設することによって、社会的偏見によって人権が侵害される傾向にあるエイズ孤児や農村において行き場を失った子どもたちに対する養育教育や職業訓練を行い、彼らの人権を守り、責任ある社会の一員として自立させることにあります。

新センター建設事業は2006年8月から2009年の3年間の予定で進められています。新センターでは、子どもたちに公教育をうける機会を与え、そのほかに衛生教育、英語・日本語などの外国語教育等も行なう予定。教育の一環とし、職業訓練(建設技術習得・農産物の生産・ハンディクラフトの製造および販売)のため、子どもたちが将来自立していくための技術習得を促すための訓練施設も設ける予定です。また、伝統舞踊を演習し、子どもたちに文化的教育を行なうとともに、同センターを訪問される方々との文化交流の促進のために、披露することのできる多目的舞台の設置も予定されています。なお、建設事業においては日本および世界よりボランティアを募集し、ワークショップ形式で共に働き、共に学ぶ、開かれた教育・交流の場としても活用されることを期待されています。

<新チャイルドケアセンター完成予想図>

※2009年7月完成予定(男子棟、女子棟、管理棟、中央集会・職業訓練棟、研修教室・劇場、屋外休憩施設来訪者宿泊施設)

※総工費(予定) 3500万円



参加方法※一口…千円(上限なし)

横向きの名刺サイズの紙(たて5.5cm×よこ9cm)にご自分の名前、メッセージ等を記入し本部事務局(岡山市西辛川)までご郵送ください。

<募集期間>2006年11月~2010年3月31日>

地域事務所とチェイ小学校 日本語教室を訪問。

岡山県大学生国際貢献インターンシップ事業では、6名の大学生がHG関係団体のカンボジア障害者陸上連盟、るしな、カンボジアトラスト、JLMMの活動に参加。また、岡山県内の高校生も県職員とともに夏休みを利用してカンボジアを訪問しました。

クリスマス・チャリティー・ディナーを開催

有志の方々のご尽力、そしてチャリティの主旨にご賛同いただいた多くのアスリートや、アーティストのみなさんのご協力により、「オークション」「クリスマス・プレゼント」「ダンスパフォーマンス」「ミニコンサート」など、大変有意義で、楽しい一時となりました。寄付金（一部経費を除く、ディナー料金やオークションの落札金）は、カンボジア等での自立支援活動に大切に活用させていただきます！

（12月5日 東京アメリカンクラブ）

<主催> HG クリスマス・チャリティー・ディナー実行委員会

<特別協力> アミジョン / JSM コンサルティング / 日本チアダンス協会 / ロダンクラブ



（オークション風景）

岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業

平成 18 年度 研修員 プラック・ブンルット氏

●ルット氏よりメッセージ

皆様、私はブラック・ブンルットと申します。8月31日に、体育教育を学ぶために来日しました。現在、カンボジアのアジア事務局で、体育教育に焦点をあて、JICA事業の体育指導要領作成のために働いています。カンボジア人は、体育分野の知識が乏しく、見学するのも難しいのです。今後、アジア事務局でより進んで働くために、HGは、私に日本で体育を学ぶ機会を与えて下さいました。

今までに小学校、中学校、高等学校、大学と多くの研修先に行きました。研修活動では、体育授業の見学、体育指導を受けるとともに先生方の指導方法を教えて頂きました。私は、多くの人々が体育に興味があり、授業をととても楽しんでいるのに驚きました。カンボジアでは、小学校で体育教育がありません。中学校や高等学校での課程は、人気のあるスポーツが内容となっています。ですので、体育とは、日本の体育授業と全く異なり、レクリエーションではなく、私達がすべき課題を与えるものだと感じました。

来日してから3ヶ月が経ちます。今までに、本部事務局のスタッフやインターン学生、また東京会員の方々にお逢いしました。皆様は、とても私に友好的で親切です。皆様の温かい歓迎と日本で学ぶ機会を与えてくださったHGと岡山県庁の方々にととても感謝しています。



第20回記念が最終回

【第20回記念吹田中の島“耐久”5時間走大会】

HGとの共催と成った20年目の【5時間走大会】は、9/24素晴らしいランニング日よりの中355名のランナー、120名のボランティアと多数の応援者で和気藹々と最終回を迎えた【5時間走】を楽しみました。

1992年から15年間に参加者から預かった、善意の募金総額2,757,819円は、「ランニング・エイド」運動として、ユニセフ「アジア・アフリカ難民児童救援」とHGの「カンボジア人殺傷地雷義肢義足」支援として届ける事ができました。これに加え、外国コイン、ベルマーク、使用済み（切手・プリカー）など沢山の支援をいただき活用させていただきました。次年度からもHGと共に誰もが楽しく走れ、ゲームも楽しめる大会作りを考えておりますのでHG会員の皆さんの参加と運営協力をお願い致します。また、楽しいゲーム案も募集します。

（吹田中の島ランナース事務局・伊藤健一）

第2回飯田・下伊那市町村駅伝競走大会 第2回小学生かわらんべマラソン大会

<主催> 飯伊陸上競技協会、信州日報

<後援> 飯田市、下伊那郡町村会ほか



（写真提供：信州日報）

12月3日(日)、飯田市の天竜川総合学習館かわらんべをスタート地点にし、川路・竜丘の天竜川右岸で、駅伝6区間25.0キロに37チーム、小学生マラソンは2.6キロを245名が健脚を競い合った。

HG代表の有森をゲストランナーに迎え、駅伝優勝チームには有森杯が贈られた。

今年は、HG飯田クラブ設立3周年記念に合わせての有森の来飯。また、2日(土)には有森の活動報告会「スポーツを通じてのチャレンジライフ」(主催：飯田市体育協会、共催：信州日报社・HG飯田クラブ)が飯田市民館で開催された。

(HG飯田クラブ・羽場一雄)

※HG飯田クラブ、飯田市陸上競技会、信州日報よりそれぞれ30万円が有森代表に手渡された。